

科目の種類	必修	科目名	古 典	学 年	3	単位数	3
コ ー ス	文系進学B						
教 科 書	大修館書店「高等学校古典1」						
副 教 材	旺文社「全訳古語辞典」 第一学習社「対訳古典文法」 浜島書店「最新国語便覧」 河合出版「古典文法基礎ドリル」 桐原書店「重要古文単語315改訂版」						
<b>科目のねらい</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・源氏物語を通し、平安時代の知識を身につけます。</li> <li>・古文を通し、読解力・想像力を身につけます。</li> <li>・古文を現代語に訳すことにより、論理力・表現力を向上させます。</li> </ul>							
<b>授業の進め方</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎知識習得のため、ビデオ教材などを活用し、古文独特の単語、文語文法を学習し、その小テストを行います。</li> <li>・古典は音読が大切です。正確に漢字、文語表現を指導しますので、正確に丁寧に大きな声で読めるようにしましょう。</li> <li>・授業では、古文を学習していきます。最初に全体像をおおまかに把握し、そして、時代背景・作者・登場人物の視点から作品をとらえ、単語や文法を勉強していきます。</li> <li>・各自、予習として品詞分解と口語訳をしてもらいますので、授業とともに古語辞典を用いて単語調べをすることなど家庭学習をしっかりとってください。</li> </ul>							
<b>より良く学習を進めるためのアドバイス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最低5回以上は丁寧に音読しましょう。</li> <li>・教科書の原文をノートに書き写し、単語の意味調べや品詞分解にチャレンジしましょう。そして、口語訳をして授業に臨みましょう。</li> <li>・小テストの知識は古典読解のための財産です。しっかり、身につけましょう。</li> <li>・教科書・ノート・副教材等を忘れずに持参し、授業に参加しましょう。</li> </ul>							
<b>評価方法</b> <p>テストについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で学習した内容について、基本的なことを中心に出題します。(主語・語句の意味・口語訳・文法事項・内容理解など)</li> </ul> <hr/> <p>平常点について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期テストの得点为中心になります。</li> <li>・出席状況・授業態度・小テスト・音読テスト・課題提出・ノート検査等も加味して、総合的に評価します。</li> </ul>							

学期	学 習 単 元	学 習 の 内 容 と ね ら い
前 期	『去来抄』  「此木戸や」  故事成語  「塞翁馬」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芭蕉の俳諧に対する真剣さを読みとり、芸術と人生の関わりについて学習する。短詩型文学において一語がいかに重要であるか認識する。</li> <li>・登場人物とその考え方をとらえる。</li> <li>・特有の語を理解する。</li> <li>・会話による臨場感を味わい、登場人物の考え方を理解する。</li> <li>・芭蕉が版木を改めさせた意味を考える。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・故事成語の本来の意味を理解し、現代に於ける意味や用法を習得する。</li> <li>・故事成語を生んだ文を原文で読むことによって、中国古典に由来する語句が現代生活に多く用いられていることを再認識し、日本文化と中国文化との関係について考える。</li> </ul>
	第 1 回 定 期 考 査	
後 期	『方丈記』  「行く河の流れ」  「安元の大火」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一貫した構想を持ち、統一した思想（無常）を展開した記録告白文学であることを理解する。また、和漢混交文の特徴を読み取る。</li> <li>・対句表現や比喻など独特の表現を味わい、作者と時代との関係を学習する。</li> <li>・災厄を通して世の無常を説こうとする作者の考えを学ぶ。</li> <li>・力強さを生む文章構造や文末表現を学ぶ。</li> </ul>
	第 2 回 定 期 考 査	
後 期	導入  確認テスト  『源氏物語』 「桐壺」 ・桐壺の更衣  ・光源氏の誕生  孔子と門人たち ・「克己復礼」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「物語」とは何か、を学習する。</li> <li>・その中で日本文学最高峰と呼ばれる「源氏物語」の価値を知り、それを学ぶ意義について考える。</li> <li>・「源氏物語」の成立・創作の背景を学ぶ。</li> <li>・作者紫式部を中心に「源氏物語」にアプローチする。</li> <li>・これから作品に入っていくのに必要な入門のための基礎知識を確認するテストを行う。</li> <li>・古典独特の言い回しや漢字の読みに注意し、音読の練習をする。</li> <li>・重要な古今異義語や表現を辞書で調べる。</li> <li>・また口語訳の際には助詞・助動詞・敬語法にも注意する。</li> <li>・登場人物の人間関係を理解する。</li> <li>・帝と桐壺の更衣の愛情に対する周囲の人々の反応、皇子の誕生による波紋などを順を追って学習する。</li> <li>・音読し、全文を現代語訳する。</li> <li>・内容を確認し、作者の観察眼の有り様や登場人物の気持ちについて考える。</li> <li>・作者の主張を整理し、内容をまとめる。</li> <li>・古代中国の思想家たちの、人間・社会・自然などに対する様々な考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方を豊かにする。</li> <li>・古代中国を代表する思想書を読むことによって、日本文化との関係について考える。</li> </ul>
	第 3 回 定 期 考 査	
	『源氏物語』 「桐壺」 ・藤壺の入内  「若紫」 ・垣間見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要な古今異義語や表現を辞書で調べます。</li> <li>・また口語訳の際には助詞・助動詞・敬語法にも注意します。</li> <li>・登場人物の人間関係を系図で紹介し、理解を深めます。</li> <li>・平安時代の恋愛・結婚のあり方や貴族社会について学習します。</li> </ul>
	第 4 回 定 期 考 査	
	第 5 回 定 期 考 査	